

呼称表現に見られる日韓敬語法分析

A Japanese-Korean Contrastive Analysis of Honorifics
in Special Reference to Designative Expressions

白 同 善

1. はじめに

言語は時の流れと共に絶えず変化するものである。日本語も韓国語もそれぞれの変化の歴史を持っている。言語は社会を反映するものであるから、言語の変化は社会の変化と深い関わりを持っている。特に敬語は人間関係の言語的表出であるから、社会構造・人間関係の変化が敬語法の変化となって現れ、また敬語法の変化が新たな人間関係の定着を助長する。『日本語教育事典』(1987:230)が「敬語の発達過程を、絶対的・固定的敬語から、相対的・場面的敬語への動きと見得る可能性はある」としているのも、身分関係を始めとする固定的な人間関係が次第に崩れていく過程を反映したものと考えることができる。

本稿は日本語と韓国語の敬語のうち、韓国語は絶対敬語であり、日本語は相対敬語であるとする基本的な枠組みが実際の言語生活ではどのように運用されているのか、その枠組みからの「ゆれ」または「逸脱」がどういう現状を見せているのかを呼称表現を中心に調べ、その実態を究明するものである。ここでいう「呼称表現」は呼びかけ表現だけでなく、話題の人物を指し示す表現(指称語)までも含む概念として取り扱う。

なお、絶対敬語法とは、素材敬語の選択が素材の人物と話し手との関係だけに基づいて行われ、素材の人物と聞き手との関係が考慮されない言語行為のことであり、相対敬語法とは素材敬語の選択に当たって、素材の人物と話し手との関係

・素材の人物と聞き手との関係・話し手と聞き手との関係などが総合的に関与する敬語法のことである。

言語が不断に変化するものであるということは、いついかなる時代においても言語は固定的な規範ではなく、必ずそこからの逸脱、「ゆれ」があるということの意味する。その「ゆれ」の実態をより具体的に把握するために「言語生活アンケート」と題する設問調査を日本と韓国で行った。本稿ではこの設問調査を中心にその結果の分析を通じて、呼称表現に見られる日韓の敬語法の実態に迫ってみたい。

本稿で用いる設問調査は、1990年7-8月に韓国で、同9-10月に日本で行ったものである。調査協力者は韓国人146人、日本人170人、合計316人であった。協力者を選ぶに当たって、日本人については韓国語の、韓国人については日本語の影響を受けていない人を選ぶように配慮した。年齢、性別、学歴、最長居住地、職業に関する協力者の内訳は<表1>、<表2>の通りである。

設問は20問からなっているが、本稿で扱うのはその前半部の呼称表現に関する10問までである。各設問の内容については、韓国人向けと日本人向けとで、ほとんど同一である。ただ、選択肢の設定は、日韓両語の間で敬語の事情が異なるので、厳密に対応しない場合がある。これについては、以下の分析において逐次指摘する。

日本語にも韓国語にも極めて複雑な呼称表現が用意されている。その中で、絶対敬語法と相対敬語法の問題に密接な関わりを持つものとして、聞き手の息子（設問1, 2）・話し手の父親（設問3, 4）・聞き手の父親（設問5, 6）・話し手の兄（設問7）に関する表現を取り上げた。さらに、呼びかけ表現として配偶者（設問8）、父親（設問9）、母親（設問10）の場合について調査した。このうち、設問7と8は便宜上省略する。

表中の学歴の区分で、「在卒」は「在学か卒業」, 「専門」は「専門大学」, 「大在」は「大学在学中」の意味である。設問の結果を示す各表の数値は人数を百分率に換算したものであり、小数点以下は四捨五入した。

本稿における例の表記法は、日本語の例は原則として「」の中に入れて示し、

<表1> 韓国人協力者の内訳(単位:人)

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 年 齢 | 10代:7 20代:80 30代:46 40代:7 50代以上:6 |
| 性 別 | 男性:93 女性:53 |
| 学 歴 | 大卒:79 大学院在卒:5 専門在卒:4 大在:20 高卒他:38 |
| 最長居住地 | ソウル京畿:54 光州全南:63 慶尚道:15 その他:14 |
| 職 業 | 会社員:86 学生:25 教師:20 その他:8 |

<表2> 日本人協力者の内訳(単位:人)

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 年 齢 | 10代:24 20代:70 30代:27 40代:26 50代以上:23 |
| 性 別 | 男性:85 女性:85 |
| 学 歴 | 大卒:45 大学院在卒:17 短大卒:13 大在:40 高卒他:54 |
| 最長居住地 | 愛知:116 岐阜:21 その他:33 |
| 職 業 | 会社員:61 学生:52 教師:23 その他:34 |

韓国語の例は、初出などの場合にはその後には便宜的な方法として/ /の中にローマ字転記法を与える。必要に応じてその日本語訳を()内に示すこともある。本稿で採用したローマ字転記法は、音素表記でもなくハングルの表記を忠実に写したものである。普通行われているハングルのローマ字表記法とも異なる点がある。また、環境によって著しく音韻に変化が起こった場合には変化した音韻でローマ字転記をする場合がある。

2. 聞き手の息子に対する呼称

まず韓国語の場合から検討しよう。

設問1(韓) 尊敬に値する人や相当な年齢差のある人の息子についてその両親に直接話す時、何と言いますか。(訳)

- 1) 아들 2) 자식 3) 아드님 4) その他
-

選択肢의 아들/adul/と 자식/chashik/は非敬語で、共に自分の子にも他人の子にも使える。ただし아들은固有語で 자식은漢語〔子息〕であるため、後者の方が多少あらたまった語であるが、喧嘩をするときには、相手への罵り言葉にもなるので、若干その響きが芳しくない場合もある。아드님/adunim/は尊敬語で自分の子には使えない。聞き手の息子に対する呼称の結果は<表3>の通りである。

この設問に対する結果を見ると、総応答者数146人のうち実に129人(88%)が尊敬語의 아드님/adunim/を使うと答えている。韓国語は絶対敬語法であるから目上の人の子女であっても子供については敬語を用いないと度々論じられることからすると、意外とも言える結果である。普通語의 아들/adul/や 자식/chashik/を選んだのはわずか7人に過ぎない。その他の中では 자제분/chajebun/を用いると答えた人が最も多かった。これは아드님と同様尊敬語であるが、さらにあらたまった語である。これも含めて考えると、尊敬語を使うのは95%にも上る。つまり、聞き手の子供に関してその素材の年齢とは関係なく素材敬語としての敬語を用いているのである。

(1) 아드님은 많이 크셨습니까? (크-셨-있습니까)

(お子様は大きくなりましたか。)

아드님은表面的には話題の人物に関する敬語形であるが、実際は聞き手に対する敬語表現、聞き手への気配りである。性別、年齢、学歴の点でもほとんど差は見られない。このような場合においては相対敬語法が規範であると言うべきである。

設問2は、規範に従った場合はどうかを問うたものである。

設問2(韓) 上の設問1のような状況で、社会的規範に従う場合、どれが妥当であると(正しいと)思いますか。(訳)

選択肢は設問1と同じである。設問1(韓)と設問2(韓)を比較してみると、尊敬語아드님이10%ほど減り(79%)、その分だけ普通語의 아들(8%)と 자식(6%)が増

<表3> 聞き手の息子に対する呼称表現(単位:%)

| | 回 答 | 全 体 | 男 性 | 女 性 | 30代未満 | 30代以上 | 大卒以上 | 大在以下 |
|------------|-------|-----|-----|-----|-------|-------|------|------|
| 設問1 (韓) | 아 들 | 3 | 3 | 2 | 1 | 5 | 1 | 5 |
| | 자 식 | 2 | 3 | 0 | 0 | 5 | 4 | 0 |
| | 아드님 | 88 | 89 | 87 | 90 | 86 | 88 | 89 |
| | その他 | 6 | 3 | 11 | 8 | 3 | 6 | 6 |
| 設問2 (韓) | 아 들 | 8 | 9 | 6 | 5 | 12 | 6 | 10 |
| | 자 식 | 6 | 8 | 4 | 7 | 5 | 6 | 6 |
| | 아드님 | 79 | 77 | 81 | 82 | 75 | 79 | 79 |
| | その他 | 6 | 5 | 8 | 5 | 8 | 8 | 3 |
| 設問1 (日) | 息子類 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| | 息子さん類 | 86 | 85 | 87 | 90 | 80 | 80 | 91 |
| | お子様類 | 5 | 4 | 6 | 3 | 7 | 8 | 2 |
| | その他 | 9 | 11 | 7 | 5 | 13 | 11 | 7 |
| 設問2 (日) | 息子類 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| | 息子さん類 | 58 | 61 | 55 | 62 | 54 | 52 | 63 |
| | お子様類 | 29 | 22 | 35 | 30 | 28 | 29 | 28 |
| | その他 | 11 | 14 | 8 | 7 | 16 | 16 | 7 |

えているが、さして大きな違いではない。この変化は、絶対敬語法的な意識が言語使用の実情よりも強いことを示しているけれども、規範に従う場合でも大多数の人が尊敬語を選ぶということは、このような場合にはすでに相対敬語法的規範が確立していることを意味している。

ただ、梅田(1977)などが言うように、この問題には聞き手の子供が成人であるかないかが関係している可能性がある。しかし、他人の子女に敬語形を用いるのは聞き手の子供の年齢とはあまり関係がない。それは、表層では素材の人物に関する敬意の現れであるが、深層では聞き手に対する間接的な敬意の表し方だからである。

次に、同じ事柄について日本語の場合はどうであるかを検討しよう。

設問1(日) 目上の人、または年上の人と話している時、その人の息子のことを何と言いますか。

- 1) 息子(子供) 2) 息子さん(子供さん) 3) お子さん 4) 息子様
5) お子様 6) その他
-

<表3>の「息子さん類」とは「子供さん」「お子さん」を含むもの、「お子様類」とは「息子様」を含むものをそれぞれ表す。

相対敬語法である日本語では、予測通り大多数(8割以上)の人が尊敬語である「息子さん/子供さん/お子さん」を選んでいる。ただ、尊敬語でも非常に丁寧な「息子様/お子様」を選んだ人はあまり多くない(5%)。普通語の「息子/子供」は1例しかなかった。その他ではほとんどがやはり尊敬語の「御息子」であり、ほぼ全員が敬語形を用いていることになる。

ところが、同じ状況でも社会的慣例に従うとどうかを問うと事情がかなり変わってくる。設問2(日)で、社会的慣例に従うと設問1(日)の選択肢のどれが正しいと思われるかを尋ねたが、その結果を設問1(日)と比較してみると、ほとんどすべての人が素材敬語を使うとしている点では変わりはないけれども、どのような尊敬語を選ぶかについては実際の言語使用と慣例の意識との間に、相当大きなずれがある。つまり、「息子さん/お子さん」の類が3割近く減少し、その分「お子様/息子様」とその他が増加している。その他の例はほとんど「御息子」であったから、結局、社会的慣例としては実際に使っているよりも丁寧な尊敬語を使わなければならない、と意識していることを端的に示している。

年齢別にこれを見ると、実際の使用状況においても規範意識においても、比率に大差が見られない。これは、敬語の使い方の平均化または簡略化の傾向が定着中であることを示すものと解釈できよう。

男女別に見ると、実際の使用状況では大差がないようであるが、規範の意識としては、男性は「御息子」、女性は「お子様」が妥当であると考え人が多い。

3. 話し手の父親に対する呼称

設問3, 4では自分の父親を素材として話すとき, どのような呼称表現を用いるかを取り上げた。相対敬語法的特徴を明らかにするために, 聞き手が話し手の父親よりも目上である場合と話し手よりも目下である場合とに分けて調査をした。韓国語の設問3は次の通りである。

設問3(韓) 自分の父親を父親より上位者(父親より年上だとか職位の高い人)に言及する時, 何と言いますか。(訳)

- 1) 아버지 2) 아버님 3) 부친 4) 아빠 5) その他
-

選択肢として挙げた表現の中で, 語構成の点は一応 아버님/abonim/だけが尊敬語である。「一応」という意味については後述する。아버지/abaji/が最も普通の語であり, 부친/puch'in/は漢字語[父親]であって多少あらたまった表現である。아빠/ap'a/は最もくだけた親密さを込めた語である。

韓国では伝統的に親を非常に尊い存在として遇してきた。自分の父親はあくまでも「お父様」であって「父」などとは言わない。ソトの誰に対しても自分の親に関しては最高の敬語形を用いることが正しいとされてきた。話題の父親と聞き手との相対的な関係は一切関係しない。この点が, 韓国語は絶対敬語だと言われる最大の要因である。

(2) 저희 아버님께서 선생님께 안부 전해드리라고 말씀 하셨(-시-었)습니다.

(私のお父様が先生によりしくお伝えするようにおっしゃいました。)

網掛をした部分が素材の父親に対する敬語形である。(2)の一つの文章に九つの敬語要素があり, その中の四つが身内に関する敬語である。では, 最近の動向は如何がであろうか。話し手の父親に対する呼称の設問結果は<表4>にまとめて示す。

全体で見ると, 一応最上級の敬称 아버님を用いる人はそれほど多くはなく, 4割弱に過ぎない。それとほぼ同じくらいの比率で 아버지가使われており, 부친も

かなり多い。しかし、このことだけから韓国語にも相対敬語法的配慮が働いていると断定することはできない。確かに語構成の点からすれば尊敬語は 아버지 だけで他の3語は「普通語」に属するということになるけれども、機能の点からすれば他の3語は敬意については言わば中立的であって、次の例から容易にわかるように、場合によって普通語としてもまた敬語としても機能する。

(3) a) 그의 아버지 (부친/아빠) 가 유미를 마중 나왔다.

彼の父親がユミを迎えに来た。

b) 아버지 (아빠) 가 나를 마중 나오셨다 (<나오-시-었다) .

(私の) 父が私を迎えに来た(いらっしゃった)。

(3a)のように他人の父親の場合には述語動詞の普通語形 나왔다 (나오-었다) と呼応し、(3b)のように自分の父親の場合には尊敬語形 나오셨다 (나오-시-었다) と呼応している。b)の場合もちろん 아버님 も可能であるが、a)では多少抵抗がある。やはり、尊敬形の 아버님 を使うならば動詞の方も尊敬語形の 나오셨다 が適当である。したがって、아버님 が尊敬語であることは間違いないとしても、아버지 などが尊敬語でないということにはならない。

しかしながら、結果を年齢別に見ると、30代未満では30代以上に比べて 아버님 を使う割合がかなり低い。これは、実際の呼びかけ表現をそのまま素材敬語として用いる若年層の言語生活の一端を示すものであるという解釈もできるが、話し手の身内である話題の人物に関してその身内より上位者に話す場合に極尊称を控えるという興味深い現象としても捉えることができる。

性別では、아버님, 부친のようなあらたまった表現は、女性よりも男性に多い。数は少ないが 아빠 と答えた人は女性だけであった。女性の53%가 아버지 (同じ系統の方言を含む) を用いていて、比較的集中している。これは日本の国立国語研究所(1981)の調べによる、女性が男性より一般的に言葉使いが丁寧であるが、場面による使い分け能力は男性が女性より細かく使い分けているという指摘と関連があるようである。

学歴の点では、大卒以上の方が 아버님 を使う割合が多いが、これは、学歴が高

<表4> 話し手の父親に対する呼称表現(単位:%)

| | 回 答 | 全 体 | 男 子 | 女 子 | 30代未満 | 30代以上 | 大卒以上 | 大在以下 |
|--------------------|------|-----|-----|-----|-------|-------|------|------|
| 設 問 3 (韓) | 아버지 | 35 | 25 | 53 | 41 | 25 | 31 | 40 |
| | 아버님 | 39 | 44 | 30 | 34 | 46 | 38 | 40 |
| | 부 친 | 21 | 26 | 13 | 21 | 22 | 24 | 18 |
| | 아 빠 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| | その他 | 3 | 5 | 2 | 2 | 7 | 7 | 0 |
| 設 問 4 (韓) | 아버지 | 28 | 25 | 34 | 34 | 19 | 26 | 31 |
| | 아버님 | 51 | 57 | 40 | 43 | 63 | 56 | 44 |
| | 부 친 | 12 | 13 | 11 | 11 | 14 | 13 | 11 |
| | 아 빠 | 5 | 0 | 15 | 9 | 0 | 0 | 13 |
| | その他 | 3 | 5 | 0 | 2 | 5 | 5 | 2 |
| 設 問 3 (日) | お父さん | 2 | 2 | 2 | 2 | 3 | 0 | 4 |
| | 父 | 89 | 86 | 92 | 91 | 86 | 96 | 83 |
| | おやじ | 3 | 5 | 1 | 1 | 5 | 1 | 4 |
| | 父 親 | 6 | 7 | 5 | 5 | 7 | 3 | 8 |
| | パ パ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 設 問 4 (日) | お父さん | 18 | 6 | 31 | 29 | 5 | 7 | 27 |
| | 父 | 39 | 31 | 48 | 28 | 54 | 48 | 33 |
| | おやじ | 25 | 49 | 1 | 24 | 26 | 28 | 23 |
| | 父 親 | 16 | 13 | 20 | 19 | 13 | 16 | 17 |
| | パ パ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

いほど言葉使いにより神経を使っている、ということを示していると言えようか。

設問4では、聞き手が自分より年下である場合に自分の父親を何と表現するかを尋ねた。選択肢は設問3と同じである。

その結果を設問3(韓)と比べ合わせてみると、年下に向かって話す場合には아빠님(お父様)を使う人がかなり増えている(39%→51%)。これは、年下の人に対しては身内のことを最上級の敬語でもって表現してもそれほど抵抗を感じないということではないであろうか。ということは、日本語のように厳密な規範ではないけれども、韓国語の場合にも相手によってある程度は身内に関する敬語の度合いを変えるという、弱い相対敬語法的配慮が働いていると考えることができる。

아빠님は、この場合にもやはり、女性よりも男性の方が多く使う。そのかわり最もくだけた表現である아빠は女性専用の語となっており、設問3の2%から設問4では15%まで増えている。아빠님の場合とは敬意度は逆であるが、話し手より下位の聞き手に対しては身内と聞き手との関係を特に考慮しないという点では同じ傾向である。すなわち、自分の父親と聞き手との関係を特に考慮しなくてもよい場合においては、言葉使いに特に注意を払っていないということが言える。

年齢の点では、30代以上に아빠님의使用が目立つ。しかし、これは父親の年齢もそれに応じて高くなっていることによるものであろう。

次に、同じ問題に関する日本語の状況を見ることにしよう。

設問3(日) 自分の父親のことを父親より目上の人(父親より年長の人とか、職階の高い人)に何と言いますか。

1) お父さん 2) 父 3) おやじ 4) 父親 5) パパ 6) その他

結果は<表4>に示されている。これは日本語が相対敬語法であることを示すのによく用いられる例であるだけに、性・年齢・学歴に関係なく、ほとんどの人が規範通りの「父」を選んでいる。誤用とされる「お父さん」もなかったわけではないけれども、大卒以上ではゼロである。くだけた表現である「パパ」もまったくなかった。

一方、話し手より年下の人に自分の父親をどう言うかを問うた設問4に対する結果はどうであろうか。

相対敬語法というのは、言わば間接的に聞き手に対する敬意を表する言葉使いであるから、敬意を表する必要のない相手に向かって話す場合には、当然予測さ

れるように、様々な表現が用いられることになる。全体としてはやはり「父」が最も多いけれども4割弱にまで減少し、年上に向かっては避けるべきだとされる「お父さん」もかなり用いられている(18%)。韓国の場合と同じく、下位者に対しては人間関係の相対的な面を特に考慮しないことを示している。

性別、年齢別によって分布にかなりの偏りが見られる。男性では半数近くが「おやじ」(49%)を用い最も多いが、女性では「父」に次いで「お父さん」(31%)が多い。「おやじ」が男性語であることはよく知られているが、このような場合に「お父さん」が女性語的色彩が濃いのは興味深い。

年齢の面では、対者をほとんど意識しない「お父さん」は若い世代に多く、30代以上では対者意識の強い「父」が半数位を占めている。これは、若い世代になるほど、特に自分より目下の人に対しては、画一的によりくだけた言葉使いをしようとする傾向があることを示していると言えるであろう。なお、学歴が高いほど対者意識がより強く現れる。

4. 聞き手の親に対する呼称

今度は聞き手の父親をどのように表現するかという問題を検討する。相対敬語法的性格を見るために、聞き手が話し手よりも年上の場合と年下の場合に分けて調べた。

まず、韓国語で年上の相手に対する場合から検討しよう。

設問5(韓) 自分より年上の聞き手の父親に関して言及する時、何と言いますか。(訳)

- 1) 춘부장 2) 아버지 3) 아버님 4) 부친 5) その他
-

춘부장/ch'unbujang/は漢語【椿府丈】で、他人の父親を指す場合にしか用いられない、すなわち相対敬語の極めて形式張った語である。結果は<表5>に示す通りである。

<表5> 聞き手の親に対する呼称表現(単位:%)

| | 回答 | 全体 | 男性 | 女性 | 30代未満 | 30代以上 | 大卒以上 | 大在以下 |
|------------|------|----|----|----|-------|-------|------|------|
| 設問5 (韓) | 춘부장 | 32 | 37 | 25 | 29 | 37 | 37 | 26 |
| | 아버지 | 3 | 2 | 4 | 3 | 2 | 1 | 5 |
| | 아버님 | 39 | 34 | 47 | 45 | 31 | 33 | 47 |
| | 부친 | 23 | 25 | 19 | 20 | 27 | 24 | 21 |
| | その他 | 3 | 2 | 6 | 3 | 3 | 5 | 2 |
| 設問6 (韓) | 춘부장 | 18 | 20 | 13 | 17 | 19 | 20 | 15 |
| | 아버지 | 16 | 10 | 28 | 24 | 5 | 10 | 26 |
| | 아버님 | 42 | 38 | 49 | 45 | 37 | 39 | 45 |
| | 부친 | 21 | 29 | 6 | 10 | 36 | 26 | 13 |
| | その他 | 2 | 3 | 4 | 3 | 3 | 5 | 2 |
| 設問5 (日) | お父様 | 46 | 33 | 60 | 43 | 51 | 53 | 41 |
| | お父さん | 50 | 60 | 40 | 51 | 49 | 47 | 53 |
| | 父親 | 2 | 5 | 0 | 4 | 0 | 0 | 4 |
| | おやじ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | その他 | 1 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 |
| 設問6 (日) | お父様 | 13 | 6 | 20 | 9 | 18 | 16 | 11 |
| | お父さん | 80 | 80 | 80 | 84 | 75 | 81 | 79 |
| | 父親 | 1 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 |
| | おやじ | 3 | 6 | 0 | 3 | 3 | 1 | 4 |
| | その他 | 3 | 6 | 0 | 2 | 4 | 1 | 4 |

全体ではやはり 아버지/abŏnim/(39%)が最も多いけれども、춘부장(32%)と부친/puch'in/(23%)もそれに匹敵する頻度で使われている。춘부장은上述のように非常にあらたまった表現であり、筆者の経験ではあまり耳にすることがないものであるが、今回の調査でこれほど多くの回答が得られたことは意外であった。設問調査ということで規範的な意識が働き過ぎているのかもしれない。選択肢の中で

最も敬意の度合いが低いと考えられる아버지/abaji/の使用頻度は極めて低い。

男性は形式張った춘부장(37%)や부친(25%)を好み、女性は아버님(47%)を好む傾向がある。年齢の点では、年配層がやはり形式張った表現をよく使っている。

では、聞き手が話し手より年下の場合はどうなるであろうか。設問6でそれを尋ねたのであるが、やはりこの場合にも最も多いのは아버님/abonim/で全体の4割強が用いている。しかしながら、形式張った춘부장은かなり少なくなっている(18%)と共に、年上に向かって話す場合には極くわずかしかが用いられていない아버지가、女性(28%)と若年層(24%,30代以上では5%)でかなり使われるようになってるのが目立つ。

息子に対する呼称表現の場合ほど顕著ではないけれども、明らかに聞き手が目上であるかないかによって表現が使い分けられており、ここにも相対敬語法的特徴が現れていると言えよう。

次は日本語の場合を見てみよう。

設問5(日) 自分より目上の人と話している時、その相手の父親のことを何と言いますか。

- 1) お父様 2) お父さん 3) 父親 4) おやじ 5) その他
-

ほとんどの人が敬語表現である「お父様」(46%)か「お父さん」(50%)を使っている。相対敬語法である日本語では当然予測されるところである。より丁寧な「お父様」は女性(60%)と年配層(51%)に好まれている。

これに対して、年下の聞き手の場合において(設問6)は、かなり事情が変わってくる。目下の人に対しては、男女の別なく大多数(80%)の人が「お父さん」を用いている。より丁寧な「お父様」は非常に少なくなり(13%)、男性では、普通は自分の父親を指すのに用いる「おやじ」も若干ではあるが(6%)使われている。相対敬語法的色彩が明らかに韓国よりも色濃く現れている。

設問5(日)と比べ合わせてみると、女性の方が男性よりも、この問題に限ってみれば、相手が目上であるか(お父様:60%, お父さん:40%)目下であるか(お父様:20%, お父さん:80%)によって言葉を使い分ける傾向が強いようである。

5. 両親に対する呼びかけ表現

絶対敬語法・相対敬語法の問題とは直接に関係はないけれども、両親に対してどのように呼びかけているかを問う設問を含めておいた。

まず、韓国語で父親に対してどう呼びかけているか問うた設問9に対する回答である。設問9・10の結果は<表6>にまとめて示す。

아버지/abəji/（お父さん；韓国語の呼称に対する日本語訳は最も近いと思われるものを便宜的に当てたものである。以下同様）が52%で最も多く、これに아님/abənim/（お父様；32%）、아빠/ap'a/（パパ；16%）がこの順で次いでいる。

性別、年齢によって分布に大きな偏りが見られるのが、この種の呼びかけ表現の顕著な特徴である。아버지は、年齢による差が若干あるものの、男女差はほとんどなく半数ほどの人が使っている。しかしながら、親密語の아빠は若い女性の専用語と言っていいほどの状況であるのに対して、敬称の아님は年配の男性に集中する(61%)という顕著な対照性を示している。아빠（パパ）と呼ぶ男性はただ一人、아님（お父様）と呼ぶ女性もたった一人だけしかない。子供のうちは男女の差なく아빠/ap'a/がよく使われているのであるが、男性の方が女性より早く敬称を使うように社会的にしつけられるためである。いずれは男女とも아빠で呼びかけなくなる様子を見せているが、父親と息子よりも父親と娘の方が親密さの度合いが強いのであろう。要するに、両親に対する呼びかけ表現を基にして性別による丁重度をはかることは困難である。親密度として捉えた方がより妥当である。

母親に対してはどうであろうか。設問10は母親に対してどのように呼びかけているかを尋ねたものである。

全体では、아빠に対応する親密称의마/əmma/（ママ）が45%と最も多く使われている。次いで어머니/əmeni/（お母さん；32%）、어님/ənim/（お母様；22%）の順である。

父親に対する呼びかけ表現の場合と同様、男女差、年齢差が顕著である。女性

<表6> 両親に対する呼びかけ表現(単位:%)

| | 回 答 | 全 体 | 男 性 | 女 性 | 30代未満 | 30代以上 | 大卒以上 | 大在以下 |
|-------------|------|-----|-----|-----|-------|-------|------|------|
| 設問9 (韓) | 아빠 | 16 | 1 | 42 | 26 | 0 | 4 | 32 |
| | 아버지 | 52 | 49 | 57 | 61 | 39 | 55 | 48 |
| | 아버님 | 32 | 48 | 2 | 11 | 61 | 40 | 19 |
| | その他 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 設問10 (韓) | 엄마 | 45 | 19 | 89 | 64 | 15 | 26 | 69 |
| | 어머니 | 32 | 45 | 9 | 26 | 41 | 44 | 16 |
| | 어머님 | 22 | 33 | 2 | 7 | 44 | 27 | 15 |
| | その他 | 1 | 2 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 |
| 設問9 (日) | パパ | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| | おやじ | 11 | 20 | 1 | 9 | 13 | 16 | 6 |
| | お父さん | 72 | 54 | 91 | 77 | 67 | 63 | 80 |
| | お父様 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| | その他 | 14 | 22 | 6 | 12 | 17 | 17 | 12 |
| 設問10 (日) | ママ | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| | おふくろ | 10 | 20 | 0 | 6 | 14 | 13 | 7 |
| | お母さん | 74 | 54 | 94 | 82 | 64 | 67 | 80 |
| | お母様 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | その他 | 15 | 29 | 6 | 11 | 20 | 19 | 12 |

の89%が親密称の엄마/emma/を使っており女性用語的性格を強めているが、父親に対する親密称의아빠とは異なり、男性もかなりの人(19%)が엄마/emma/を用いている。これは、明らかに父と子より母と子の関係の方が親密であることを物語っている。

また、若年層に親密称의엄마が好まれ(64%)、年配層に敬称의어머님이好まれる(44%)のは、父親に対する呼びかけの場合と同じである。しかし、아빠は年配層では全然用いられていないのに対して、엄마は年配層もかなり(15%)使ってい

る。これは、母親との親密な関係は持続性があることを示している。

なお、1978年の서정수(1989:183)による調査結果と比較してみると、親密称의아빠/ap'a/が8%から16%まで増え, 엄마/emma/は47%と45%でほとんど変わらないことがわかる。このことは父と子との関係が絶対的な縦の関係から親密な関係に変わりつつあるということを示していると言える。

次に日本語における両親への呼びかけ表現を検討しよう。まず父親への呼びかけ表現に関する設問9への回答である。

「お父さん」が全体では72%を占めており、基本的表現となっている。韓国語の場合と同様、男女差がかなりある。男性の5人に一人は「おやじ」を使っているのに対して、女性ではほとんど一律に「お父さん」(91%)を用いている。年齢差はほとんどないようである。「お父様」と呼びかける人はほとんど見られないが、これはもう古めかしい表現となったのであろうか。

「パパ」「おやじ」「お父さん」「お父様」以外のその他の比率が、特に男性で、かなり高くなっていることがこの設問の特徴である。「父さん」、「父ちゃん」、「お父ちゃん」、「おやじさん」、「おじいさん」(孫がある場合)、「おじいちゃん」、「おじさん」など多彩である。呼びかけ表現がないという回答もいくつかあった。韓国語では、男女を問わず、ほとんどすべての人が아빠/a p'a/, 아버지/aboji/, 아버지/abenim/のどれかを用いており、多様性がないことと好対照を示している。韓国人に比べると日本人の男性は親への呼びかけに苦労しているようである。呼びかけの表現がないというようなことは、韓国では全く考えられないことである。父親を「おじいさん」と呼ぶことなどもってのほかである。また、自分の父親に向かって「おじいさん」などと間接的な表現で直接呼びかけることも、韓国にはない習慣である。

次は母親への呼び方である(設問10)。

全体的な分布状況は父親に対する呼びかけの場合とほとんど変わらない。「お母さん」が基本形(74%)であり、女性(94%)はほとんど一律にこの表現を用いている。男性では、「おやじ」に対応する「おふくろ」がやはり5分の1みられ、「ママ」「おふくろ」「お母さん」「お母様」以外のその他の比率も高く多様な表現が使われている。

これは韓国人が、母親に対しては父親に対してよりも砕けた呼び方をするのと同対照的である。韓国では父親と母親に対する親密さの度合いがその呼び方にはっきりと現れるのに対して、日本ではそのような差が現れない。一つ言えることは、韓国では女性よりも男性の方が両親に対して程度の高い敬語の呼び方をするのに対して、日本では必ずしもそうではないという点である。

韓国では父親への呼びかけと同じく、母親を「おばさん」と呼ぶことは言うまでもなく、「おばあさん」などと呼びかけることもできない。夫を「おとうさん」と呼びかけたり、妻を「おかあさん」と子供を想定して直接呼びかけるような日本の習慣は韓国にはなく（ただし、妻が夫をよ叫（パパ）と呼びかける場合は若干あるようである）、韓国人がこのような日本の習慣に馴染むまでには相当な期間を要する。

6. むすび

本稿では、日韓両言語の呼称表現を中心に絶対敬語と相対敬語の運用の実態を实地調査に基づいて考察した。従来の研究は敬語法を規範的に論ずる場合が多かったように思える。もちろん規範は事実として存在することに疑いはないが、その規範からの逸脱も常に存在するのである。特に、敬語法については、社会構造が急激な変化を見せている現代においては、規範と現実とのずれは大きいと思われる。本稿の設問調査は部分的ではあるが、日韓両言語の敬語法に関するこれまで知られなかった実態の一側面を明らかにできたと思われる。

韓国語の相対敬語の要素は伝統的にもまた新しい傾向としても現れる。設問調査の結果は、伝統的な規範のほかにも、従来絶対敬語を用いてきた、身内の人が話題の人物になる場合の伝統的な言い方に相当な「ゆれ」があることを示している。つまり、ソトの人に向かって目上の身内のことを話す場合、聞き手が素材の人物より目上であるときは素材敬語として極尊称を用いるのに一種の窮屈さを感じているのであるが、かと言ってこの場合に相対敬語法がきちんと確立しているかと言うとそうでもないのである。

日本語については、皇室敬語のような特殊な場合を除けば、やはり支配原理は

相対敬語法である。もつとも、その特殊な場合においても、戦前のように一般人の間ではいまや行われず、報道関係の表現に限られている。

日本語で相対敬語法が支配的であると言っても、やはり様々に「ゆれ」の現象がある。親より上位者にはきちんと相対敬語を用いても、自分より年下の人に対しては、自分の親のことを「父」と言わず、「お父さん」「おやじ」などと言っている人が相当目立つ。特に若年層においてはそのような傾向が著しい。親しい間柄で自分の「妻」のことを「うちの奥さん」と言ったりするのもこの類であろう。これは敬語運用の一種の「共通化現象」と見做せるのではなからうか。上下関係よりは親疎関係による言葉使いの使い分けと見做した方が良からう。日本でも韓国でもある型に嵌まった敬語行動に執着しない動向を見せているのである。

日韓両言語において呼称表現の果たす機能は甚だ重要であり、その運用の実態に注目すべきである。両国における敬語の役割はそれぞれ特徴的であるが、その中にも両言語の敬語の接点を見いだすことができる。

参考文献

- 梅田博之 1977 「朝鮮語における敬語」(岩波講座日本語4『敬語』) 岩波書店
- 国立国語研究所 1981 『大都市の言語生活』分析編(国立国語研究所報告70-1) 三省堂
- 서정수 1989 『존대법의연구』 현행대우법의체계와문제점 한신문화사
- 日本語教育学会編 1987 『日本語教育事典』(縮刷版) 大修館書店